

24-1 革命の（平和的または強力による）方法と国際連帯

『ハーグ大会についての演説』

「労働者は、新しい労働の組織をうちたてるために、いつかは政治権力をにぎらなければならない。労働者は、古い制度を支えている古い政治をくつがえさなければならない。そうしなければ、このことを怠り軽んじた古代のキリスト教徒と同様に、この世で天国を得る機会を喪失することになるであろう。

しかし、われわれは、この目標に到達するための方法がどこでも同じだと主張したことはない。

われわれは、それぞれの国の制度や風習や伝統を考慮にいれなければならないことを知っており、アメリカやイギリスのように——そしてもし私があなたがたの国の制度をもっとよく知っていたならば、あるいはオランダもここにづくわえたかもしれないが——、労働者が平和的な方法によってその目標に到達できる国々があることを、われわれは否定しない。だが、このことが正しいとしても、われわれはまた、この大陸の大多数の国々では、強力がわれわれの革命のてことならざるをえないことをも、認めなければならない。強力こそ、労働の支配をうちたてるためには、いつかはそれに訴えなければならないものなのである。……

市民諸君、インタナショナルのあの基本原理、すなわち連帯を、忘れないようにしよう。活力を与えるこの原理を万国のすべての労働者のあいだに、強固な基礎のうえで確立したときにのみ、われわれは、われわれがかかげた偉大な終局目標を達成できるであろう。革命は連帯しあつたものでなければならない。このことは、パリ・コミューンの偉大な戒めが教えている。パリ・コミューンは、すべての中心地で、ベルリンで、マドリード等々で、パリのプロレタリアートのこの最も壮大な蜂起に匹敵する大きな革命的運動が起こらなかったために、倒れたのであった。」⑤-[136]P253-255の下線部（『マルクス・エンゲルス全集』18巻157-9ページ、マルクス『ハーグ大会についての演説』：1872年9月8日のアムステルダムの大衆集会での演説の新聞通信員による記録）

政治権力をにぎるための革命の方法にはアメリカやイギリスのように平和的方法で目標に到達できる国々があるが、ヨーロッパの大多数の国々では強力が革命のてことならざるをえない。革命は国際的な連帯なしに成就できない。

「**社会主義者取締法にかんする帝国議会討論の概要**」 2017/8/8 不破哲三氏の抜粋から
「時の社会的権力者がわからのいかなる強力的妨害も立ちはだからないかぎりにおいて、ある歴史的発展は『平和的』でありつづける。たとえば、イギリスや合衆国において、労働者が国会（パルメント）ないし議会（ kongress ）で多数を占めれば、彼らは合法的な道で、その発展の障害になっている法律や制度を排除できるかも知れない。……それにしても、旧態に利害関係をもつ者たちの反抗があれば、『平和的な』運動は『強力的な』ものに転換するかも知れない。その時には彼らは（アメリカの内乱やフランス革命のように）強力によって打倒される、『合法的』強力にたいする反逆として」（1878年9月『マルクス・エンゲルス全集』34巻412ページ）